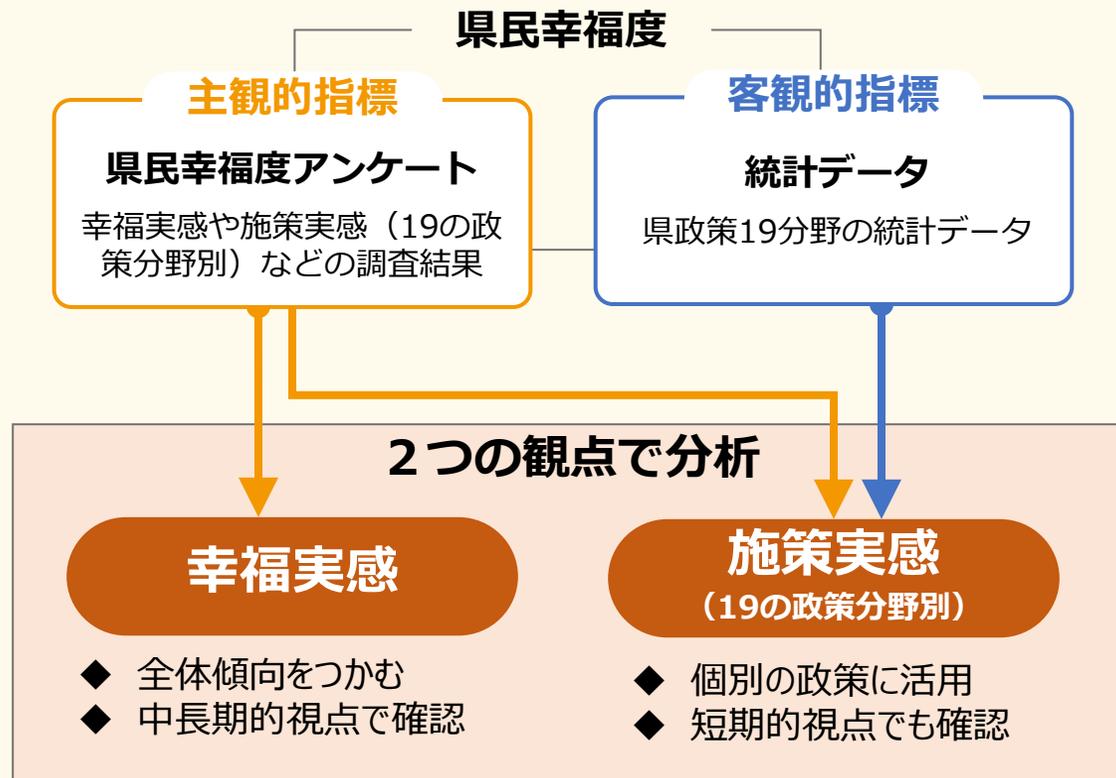


目的・概要

- 令和6年度実施の「**県民幸福度アンケート**」の結果をもとに、**県民幸福度**を見える化
- ①**幸福実感**、②**施策実感**（19の政策分野別）の観点で分析

1. 分析の方法



2. 今回レポートの特徴

- 5年分の蓄積データを活用し、より丁寧に分析
- 県民へのインタビューを加え、幸福実感に影響する要素を掘り下げて分析

3. アンケートの概要

調査対象	県内在住の満18歳以上の3,300人
調査期間	令和6年9月17日～10月11日
有効回答数 (有効回収率)	1,435件 (43.5%)
標本抽出方法	層化二段無作為抽出法（選挙人名簿登録者） ※県内11地域から300人ずつを抽出 地域ごとの人口割合に応じて補正
調査方法	郵送による調査票の配布 郵送又はオンラインによる回答回収
主な質問項目	幸福実感、満足感、幸せかを判断する際に重視した項目、群馬県に対する気持ち、19の政策分野別施策実感

4. 令和6年度アンケート結果の概要

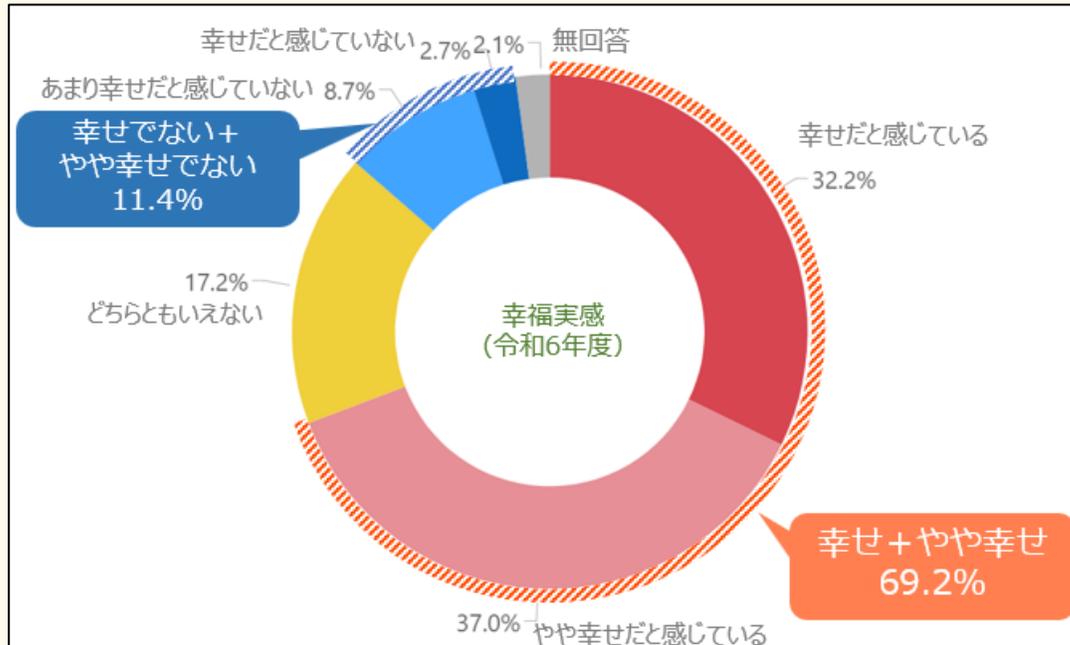
(1) 幸福実感

※「幸せだと感じている」と「やや幸せだと感じている」の回答割合を合わせたもの

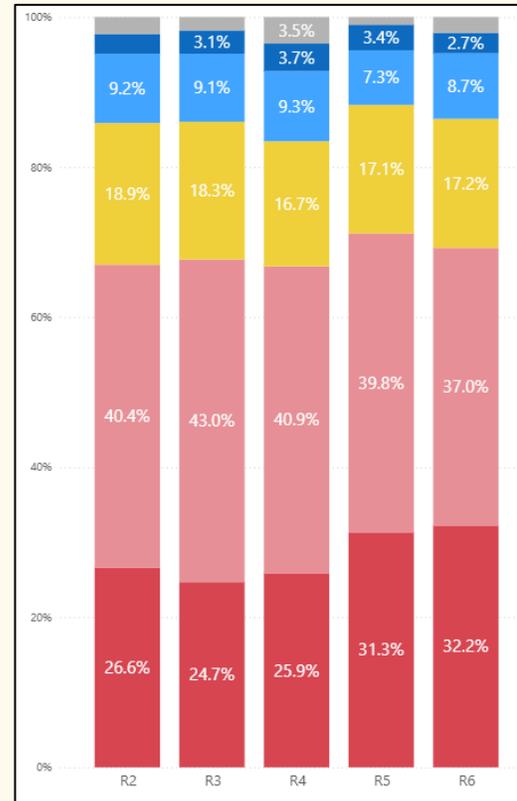
- 『幸せだと感じている*』割合は、**69.2%** で **前年度から横ばい、5年間では上昇傾向**
- 幸せを判断した際に重視した事項の**上位5項目は5年連続**で変わらず

(参考)
 R5年度：71.1% R4年度：66.8%
 R3年度：67.7% R2年度：67.0%

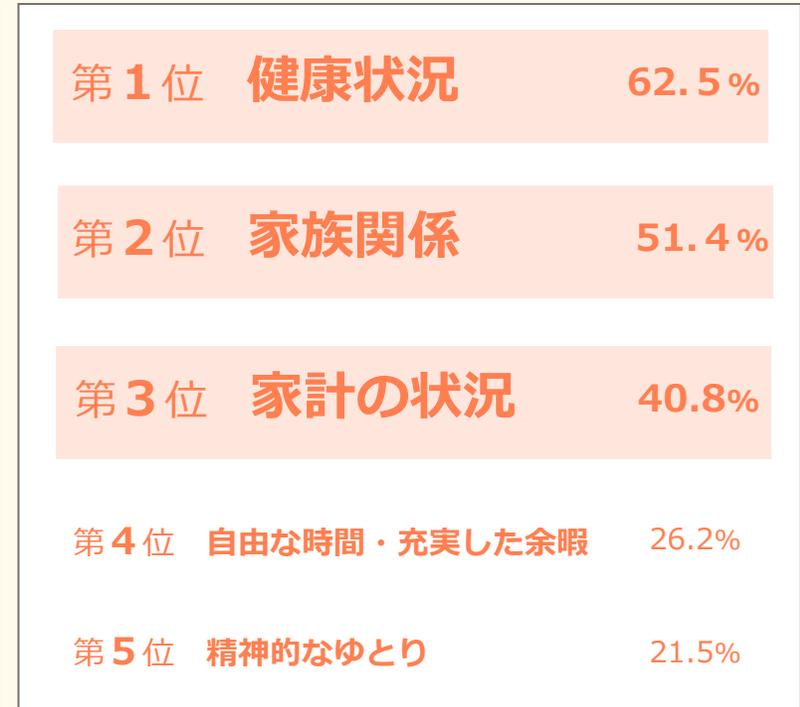
幸福実感



幸福実感の5年間の推移



幸せを判断した際に重視した事項



(次ページの14項目から、最大3項目選択)

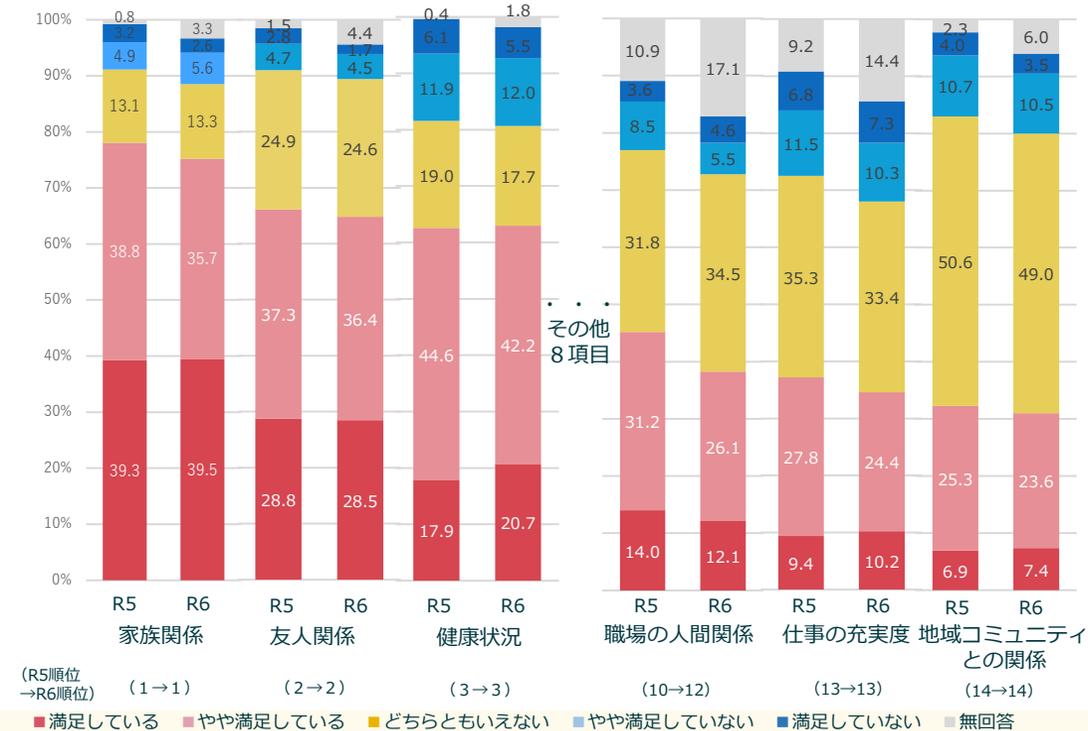
■ 幸せだと感じている ■ やや幸せだと感じている ■ どちらともいえない
 ■ あまり幸せだと感じていない ■ 幸せだと感じていない ■ 無回答

(1) - 2 14項目の満足感

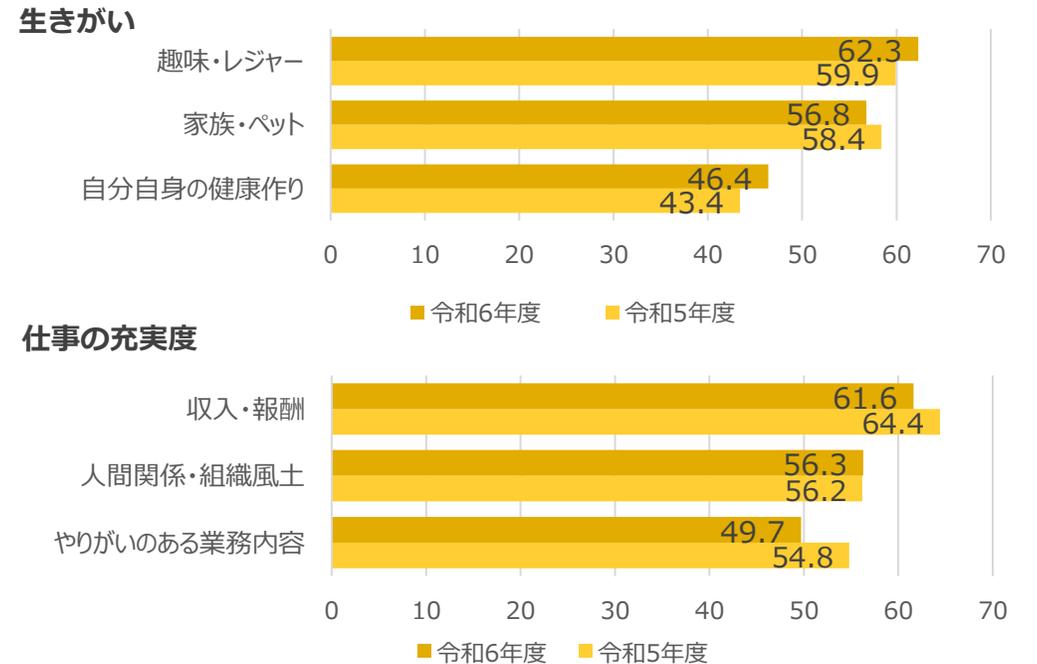
健康状況、家計の状況、就業状況、家族関係、友人関係、精神的なゆとり、生きがい、生活環境、地域の治安・防災体制、地域の自然・歴史・文化、職場の人間関係、地域コミュニティとの関係、仕事の充実度、自由な時間・充実した余暇の14項目

- 『満足している※』割合の上位3項目は5年連続で変わらず。最も高かったのは『家族関係』で75.2%、最も低かったのは『地域コミュニティとの関係』で31.0%
- 前年度と比較して『職場の人間関係』の『満足している割合』が大きく下降（45.2%⇒38.2%）
- 「生きがい」の満足感を判断する際に最も重視する事項は『趣味・レジャー』で62.3%
- 「仕事の充実度」の満足感を判断する際に最も重視する事項は『収入・報酬』で61.6%

前年比較 『満足している』割合 ベスト3項目



満足感を判断する際に重視する事項



(2) 19の政策分野別 施策実感

※施策実感：設問に対する回答を点数化し（「感じる」100点、「やや感じる」75点、「どちらとも言えない」50点、「あまり感じない」25点、「感じない」0点）、その平均値を求めたもの

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問	施策実感	
		R5年度	R6年度
1 地域政策	1 近隣住民同士が困ったときに助け合える地域環境	55.2	56.1
	2 移住者を受け入れる土壌	56.0	↑ 60.6
2 スポーツ	1 運動やスポーツに取り組むことができる環境	56.4	55.9
	2 運動やスポーツを観戦する機会	50.8	↓ 48.9
3 文化	1 群馬の歴史文化への誇り	60.9	↑ 63.5
	2 芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場	53.6	53.0
4 こども	1 安心して子どもを産み育てられる環境	52.4	↑ 54.7
	2 子育てをしながら働き続けられる環境	47.4	48.6
5 生活	1 社会のあらゆる分野での個性と能力を発揮	47.8	49.1
	2 ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	50.3	↓ 48.3
	3 消費者としての安心・安全	57.5	58.4
6 健康	1 健診や生活習慣病対策など相談や指導を受けられる環境	56.0	↑ 59.0
	2 自主的な健康づくりを促すための支援	48.9	↑ 51.7
7 医療	1 必要な医療サービスを受けられる体制	51.4	↑ 58.4
	2 救急医療体制	56.2	↑ 61.0
8 福祉	1 介護が必要でも住み慣れた地域で安心して生活できる環境	50.5	↑ 53.6
	2 悩みや不安をいつでも相談できる環境	42.0	↑ 44.9

● 施策実感が高い項目は、

- ① 安心・安全な食品・農畜産物(65.5)
- ② 治安 (64.3)
- ③ 歴史文化への誇り (63.5)
- ④ 救急医療体制(61.0)
- ⑤ 移住者を受け入れる土壌(60.6)

● 施策実感が低い項目は、

- ① 公共交通機関 (31.9)
- ② 県産木材の使用をよく見かける (36.4)
- ③ 適切な森林の管理や利用(39.1)
- ④ 十分な収入(39.2)
- ⑤ 農林水産業の担い手確保・育成(39.4)

↑ 上昇：令和5年度と比較し、令和6年度アンケートでの施策実感が有意に上昇
 ↓ 下降：令和5年度と比較し、令和6年度アンケートでの施策実感が有意に下降

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問	施策実感	
		R5年度	R6年度
9 環境	1 再生可能エネルギーの普及や利活用	43.1	44.2
	2 食品ロスを減らすための行動の定着	46.5	↑ 48.2
10 森林・林業	1 公共施設や住宅への県産木材の使用をよく見かける	- (※1)	36.4
	2 適切な森林の管理や利用	42.4	↓ 39.1
11 農業	1 農林水産業の担い手の確保・育成	39.8	39.4
	2 県産農林水産物のブランド評価	- (※2)	57.7
	3 県産農林水産物の県内外への販路拡大	- (※2)	57.3
12 産業経済	1 働きやすい職場環境	43.0	↑ 44.5
	2 十分な収入を得ることができる仕事	39.1	39.2
13 観光・コンテンツ	1 魅力ある観光地づくり	50.1	50.7
	2 海外からの観光客にとって魅力的な観光地	57.1	58.6
14 県土整備	1 鉄道・バスなどの公共交通機関の利用しやすさ	30.3	31.9
	2 安全で快適な移動ができる道路空間の整備	41.2	↑ 45.7
15 防災・危機管理	1 自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	54.5	55.3
	2 災害時に必要な情報提供を受けられる体制	52.0	53.4
16 教育	1 子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育	44.2	↑ 45.9
	2 教育の充実を図るためのデジタルの活用	50.0	↑ 53.0
17 防犯・交通安全・食品衛生	1 治安がよく安心した生活	63.8	64.3
	2 交通事故が少なく安全な生活	49.7	50.3
	3 安心・安全な食品・農畜産物の提供	65.2	65.5
18 国際	1 外国人と日本人が違いを理解し、認め合う暮らし	49.2	48.1
	2 群馬県の魅力の世界への発信	46.6	47.4
19 行財政改革	1 行政手続きのデジタル化	- (※3)	51.2
	2 行政手続きの利便性の向上	- (※3)	48.9
	3 行政と民間が連携・協力する体制	40.9	42.0

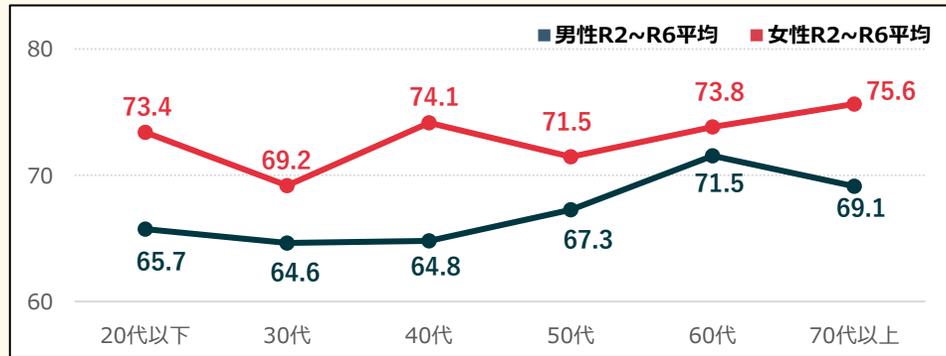
※1 令和5年度「公共施設や住宅などへの県産木材の使用」(39.8) 施策実感を正確に把握するため、設問表現を修正
 ※2 令和5年度「群馬県産の農林水産業がブランドとして評価、県内外への販路拡大」(50.6) 詳細分析のため、設問分割
 ※3 令和5年度「行政手続きのデジタル化と、利便性の向上」(44.1) 詳細分析のため、設問分割

5. 分析の概要

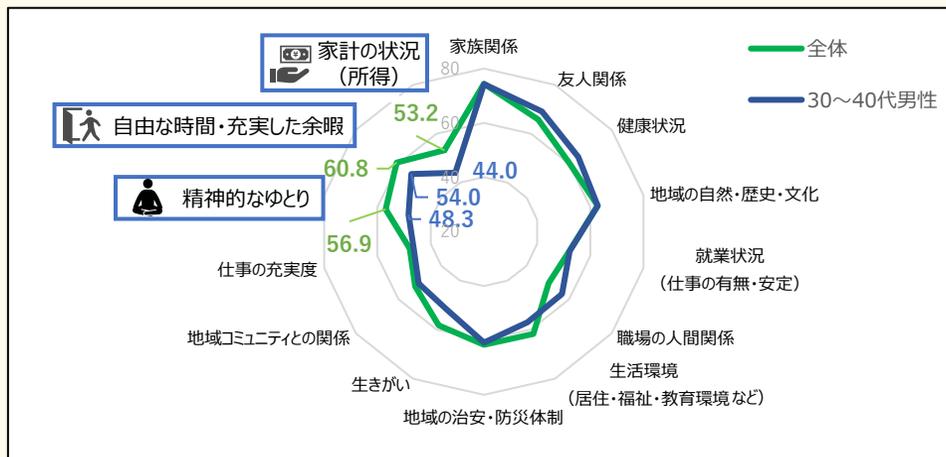
(1) 幸福実感の現状 (年代・男女別、満足感との関係)

- 全年代で女性より男性が低く、特に**30~40代男性が低い**。
- 30・40代男性は特に家計の状況(所得)、自由な時間・充実した余暇、精神的なゆとりに満足していない状況。

年代・男女別の幸福実感の平均点 (令和2~6年度の平均)



満足感が特に低い項目 (30~40代男性) (令和2~6年度の平均)



(2) インタビュー結果と分析

- 30~40代男性の幸福実感が低い要因を深掘りするためインタビューを実施。(4名)
- 分析の結果から、**ライフステージ要素(経済的・時間的プレッシャー等)のネガティブな影響が顕著で、地域要素(ストレス回避等)のポジティブ効果を打ち消している構造を確認。**



- 30~40代男性の幸福度向上のため、ライフステージ要素の改善として、主に「**産業経済**」分野への注力が必要。



※福祉、地域政策、スポーツ、文化、生活